

■ 第 22 回インターカレッジ民法討論会ルール ■

【立論・質疑応答】

- ◇ 発表者は5人以内。
- ◇ 黒板使用不可。
- ◇ 壇上への持ち込み資料はすべて可。
- ◇ 発表時間は1チームあたり10分以内とする。時間を超過した場合も、発表は中断せず最後までやること。但し、発表後に超過した時間を公表する。
- ◇ 発表後、1分間のインターバルの後に、質疑応答に入る。質疑・応答時間は13分以内とする。尚、13分を経過時点で質疑応答がなされている場合は、その続行を認め、終了時点で次の討論へ進む。
- ◇ 質問者は、原則として挙手が早い者から指名する。但し、関連の質問をする者がいる場合は、その者から先に指名する。また、特定のゼミ・人物に偏らないように配慮する。
- ◇ 上記のルールを元に、質疑応答を担当している教員が質問者を指名する。
- ◇ 質問者は、まず所属チーム名と氏名を述べ、質問は簡潔・明瞭に行うよう努めること。
- ◇ 関連の質問をする者は「**関連**」と言って、挙手をする事。
- ◇ 発表チームは、質問終了時から1分以内に応答すること。1分以内に応答がない場合、無回答とされ、次の質問に移る。
- ◇ 自ゼミへの質問は原則禁止とする。しかし他ゼミからの質問が無かった場合においては認める。
- ◇ 参加ゼミからの質問がない場合においては、一般見学者にも質問を認める。但し、一般見学者は優秀質問者には入れない。

【レジュメについて】

- ◇ レジュメの原稿は、用紙のサイズA4とし、ページ数は4ページ以内とする。
- ◇ レジュメの印刷は、用紙のサイズはB4とし、見開き2ページの表裏印刷の1枚とする。
- ◇ フォント、フォントサイズ、余白等のレジュメ構成は自由とする。但し、読みやすいように配慮すること。

【準備段階におけるルール】

- ◇ 教員ならびに大学院生は、学生による準備のいかなる段階においても一切関与してはならない。クリーンルームの原則の見地から、学生の準備会にも立ち会ってはならない。ゼミの時間を使う場合でも、その場に教員・大学院生はいてはならない。
- ◇ 参加学生は自分たちのノウハウで準備すること。一般的な図書館レベルの助言のほかは、文献情報なども含め一切アドバイスを受けてはならない。

【投票方法】

- ◇ 投票用紙は、各自評価後、ゼミごとに投票用紙回収袋に入れる。
- ◇ 学生に関しては、自分の所属するゼミへの投票は出来ない。

※ 全てのゼミの発表が終わりましたら、スタッフが投票用紙回収袋を取りに伺いますので、投票用紙が人数分入っているか確認の上、その場でお待ち下さい。

【投票について】

- ◇ 各チームに対する評価は、投票によって行う。
- ◇ 投票の際は所属大学名と自分の氏名を記入する。無記入の票は無効とする。
- ◇ 投票権は、すべての討論を聞いた学生に与えられる。また、すべての討論を聞いた一般見学者にも投票権を認める。
- ◇ 教員が発表中に退室した場合、その時に発表していたゼミの採点は**無効**とし、平均点を出す際に有効投票数から除く。また、その他のゼミに対しては、通常の採点方法とする。
- ◇ 発表・レジュメ・質疑応答の3つを採点基準とする。
※質疑応答の採点は質問に上手く答えられたかどうかの評価です。
- ◇ 教員は各ゼミに対し、1つの採点基準の上限を**10点**とする。
- ◇ 学生及び一般見学者の採点は**相対評価**とする。
最も良かったゼミを5点として、その他のゼミを1～4点で評価する。
5点を複数のゼミに与えてもよい。
5点を全く受けていないものは**無効票**とする。
- ◇ 学生及び一般見学者の点数は集計時に2倍にし、教員と同等の評価を行う。

◇ 教員並びに学生、一般見学者は下記の採点基準を参考に、自分の判断の下、公平な観点から採点をすること。

採点基準

- ① レジюме→
 - 見やすい書き方か。
 - 内容が発表に矛盾していないか。
- ② 発表→
 - 報告の姿勢が良かったか。
 - 報告の趣旨・内容・結論が明確であったか。
 - 結論を導く根拠、法律構成が明確に述べられていか。
 - 根拠は客観的であり、説得力があったか。
 - 発表時間を超過していなかったか。
- ③ 質疑応答→
 - 質問を正確に理解し、それに対して答えられたか。
 - 返答は簡潔でわかりやすい答えか。

◆得点の算出方法◆

→ 学生・一般見学者票の得点と、教員票の得点の総合計点数をそれぞれの有効投票数で別々に割って平均し、その学生・一般見学者票の平均点を2倍したものと教員票の平均点を合計したものが、最終の獲得点数とする。

→ 平均点を出す時に、もし、割り切れない場合は、小数第2位を四捨五入する。

計算の手順

1) 合計点数の計算方法

[教員]

$$\text{①レジюме【最大10点】} + \text{②発表【最大10点】} + \text{③質疑応答【最大10点】} \\ = \text{合計点数【最大30点】}$$

[学生・一般見学者]

$$\text{①レジюме【最大5点】} + \text{②発表【最大5点】} + \text{③質疑応答【最大5点】} \\ = \text{合計点数【最大15点】}$$

2) 平均点の計算方法

学生・一般見学者の総合計点数・教員の総合計点数をそれぞれの有効投票数で別々に割って、平均点を出す。

3) 獲得点数の計算方法

$$\text{学生・一般見学者の平均点【最大15点】} \times 2 + \text{教員の平均点【最大30点】} \\ = \text{獲得点数【最大60点】}$$

- ※ 自ゼミへの投票は無効とし、平均点を出す際に有効投票数から除く。
- ※ レジユメの提出期限を過ぎた、ゼミは獲得点数から**5点減点**する。また、当日にレジユメを印刷して持ってくること。
- ※ 投票の結果、獲得点数が同点のゼミが出た場合、教員票の平均点の高いゼミを高順位とする。

【優秀質問者投票】

- ◇ 投票権はすべての討論を聞いた教員並びに学生に与えられる。また、すべての討論を聞いた一般見学者にも投票権を認める。優秀質問者投票に関しては自分のゼミへの投票も可能。
- ※ あくまで自分の判断の下、公平な観点から投票すること。
- ◇ 優秀質問者の投票については、優秀だと思われた質問者1名の氏名(フルネーム)及び所属チーム名を該当欄に記入する。記入された氏名がどの質問者を指すのか判別不可能な場合は**無効票**とする。

以上